様式1

令和7年度　学校経営計画

広島市立広島工業高等学校

学校教育目標
個人の尊厳を重んじ、豊かな人格の完成をめざすとともに、素養に富んだ工業技術者として、平和と文化の創造に寄与する人物を育成する。

目指す学校像（ビジョン）
・将来の地域産業を支えつつ、新たな価値を創造する人物を育成する学校
・専門分野の知識・技術に加え、主体的にやりたいことが学べる学校
・地域社会から信頼され愛され続ける社会に開かれた学校

領域	中期経営目標	短期経営目標	具体的方策	評価指標・評価規準								推進担当等
				努力指標				成果指標				
確かな学力	ものづくりにおけるチャレンジを継続して行い、多角的に産業の発展・環境について考えること等により、幅広い知識や高度な技術を身に付け、地域産業をリードする力を育成する。	NO1 主体的に見通しをもって学習する意欲を喚起し、社会の変容に応じて幅広い知識やICT技術をはじめ高度な技術を身に付ける生徒を育成する。	ICTを授業展開や課題解決などに活用し、主体的な学習になる取り組みを行い、生徒の興味関心を深める。 ICT活用をテーマにした授業交流や教職員研修を充実させる。	教職員アンケート「ICTを活用した授業展開や課題を取り入れた」と回答した教職員の割合				生徒アンケート「私は、学力の向上に主体的に取り組んでいる」と回答した生徒の割合				教務部
				4	90%以上	3	80%以上	4	90%以上	3	80%以上	
				2	70%以上	1	60%未満	2	70%以上	1	60%未満	
		№2 自らの力を信じ、ものづくりにおけるチャレンジを継続して行うことができる生徒を育成する。	ものづくりを、工業生産、生産工程の情報化、持続可能な社会の構築などに着目して捉え、新たな時代を切り拓く工業技術者としての素養を身に着けさせるため、1人1台端末を効果的に活用した指導方法の工夫・改善を行う。 　また、生徒が主体的に学びに向かい、思考力、判断力、表現力を活かし協働することでものづくりにおけるチャレンジを継続して行うことができる力を身に付けさせる。	教員アンケート「1人1台端末を活用した実験・実習の課題設定、指導方法の工夫・改善を行っている。」、「私は、授業などを通して生徒の発想力や創造力を伸ばすように取り組んでいる。」と回答した教職員の割合				生徒アンケート「私は、実験・実習の内容がどのような産業、生産工程と関連しているか理解している。」、「私は、将来のために学習や部活動、資格取得に計画的に意欲を持って取り組んでいる。」と回答した生徒の割合				工業科
				4	90%以上	3	85%以上	4	90%以上	3	80%以上	
				2	70%以上	1	70%未満	2	70%以上	1	70%未満	
		NO3 工業科各専門分野の技術と実務の進展を踏まえ、卒業後に求められる知識・技術・技能の実際を体験的に学び、持続的な産業の発展について多角的に継続して考え、地域産業をリードしていくことのできる生徒を育成する。	地域の産業界との連携を強化し、産業界のニーズや動向を把握し、企業見学やインターンシップ、業界人との交流などを通じて、生徒が体験的に学ぶ機会を提供する。チューター制度を活用し、キャリアカウンセリングや進路指導を通じて生徒一人一人の適性や興味を把握し、それに応じた進路選択の方向性を提案・支援する。総合的な探究の時間を通じて、自己理解や社会との関わりについて考え、将来の進路を意識して学び続ける大切さを理解させる。	教職員アンケート「市工は、チューター制度の活用により生徒を支援している。」と答えた教職員の割合				生徒アンケート「私は、将来の進路を意識して粘り強く学習に取り組んでいる。」と答えた生徒の割合				進路指導部
				4	90%以上	3	85%以上	4	80%以上	3	75%以上	
				2	80%以上	1	80%未満	2	70%以上	1	70%未満	
豊かな人間性	生徒が安心・安全に学校生活を送れるよう、さまざまな学校教育活動を通して社会性や協調性を育み、他者を理解し、思いやりの心を大切にしながら協働して課題解決に努め、良好なコミュニケーションを図ることができる生徒を育成する。	NO4 生徒の主体性や自己有用感を培い地域貢献の意欲喚起に努めるとともに、他者を思いやり、周囲との良好なコミュニケーションを図ることのできる生徒を育成する。	部活動への加入を奨励し、年間を通じて生徒の主体性や創意工夫を積極的に活かし、学校生活の充実や改善、向上を図る。また、地域の奉仕活動へ生徒会や各部活動等で参加を促し、体験させることで、自己有用感を高め、周囲への貢献意欲を高める。	教職員アンケート「特別活動や部活動等を通じて、生徒の自主・自立の力を育て、魅力的な体育祭・市工祭に取り組んだ」と回答した教職員の割合				部・同好会への加入率				特活部
				4	85%以上	3	75%以上	4	85%以上	3	75%以上	
				2	65%以上	1	65%未満	2	65%以上	1	65%未満	
		NO5 いじめを生まない、いじめを許さない支持的風土づくりを進めるとともに、規範意識と基本的生活習慣を身に付け、礼儀やマナーを大切にする生徒を育成する。	時間を管理することや身だしなみを整えることの意味を理解させるとともに校則や交通ルールなど当たり前にできることの意識、レベルを高める。また、担任や学年と連携を図り、生徒の実態に応じた指導を行う。	保護者アンケート「市工では、遅刻を減らすための取組をしている、市工は挨拶や服装など、規範意識の育成に取り組んでいる」と回答した保護者の割合				生徒アンケート「時間や校則などのルールを守り、学校生活に前向きに取り組んでいる。」と答えた生徒の割合				生徒指導部
				4	90%以上	3	85%以上	4	85%以上	3	80%以上	
				2	80%以上	1	80%未満	2	75%以上	1	75%未満	
		NO6 生徒情報を共有する体制を整備し、生徒が安心・安全に学校生活を送れる環境を整えるとともに、他者を思いやり周囲との良好なコミュニケーションを図ることのできる生徒を育成する。	生徒や保護者の悩みや配慮すべき事項に迅速に対応するために、担任、学年、各科、関係分掌と情報共有し、配慮事項連絡会や生徒支援委員会において、対応策の検討並びに環境整備を推進する。	教職員アンケート「私は、いじめアンケートやチューター面談によっていじめの未然防止と早期発見・解決に取り組んでいる」と回答した教職員の割合				生徒アンケート「市工は安心して登校・生活できる環境である」と回答した生徒の割合				保健部
				4	95%以上	3	85%以上	4	90%以上	3	80%以上	
				2	75%以上	1	75%未満	2	70%以上	1	70%未満	
		NO7 いじめを生まない、いじめを許さない支持的風土づくりを進めるとともに、他者を思いやり周囲との良好なコミュニケーションを図ることのできる生徒を育成する。	○「社会人になるための準備をする」ことを目標に、時間を守ること、授業規律を守ること、挨拶をすることについて指導を徹底し、基本的生活習慣を身に付けさせる。 ○学年団での連携を密にし、生徒情報を共有し、個々の特性に適した指導を行う。	教職員アンケート「私は、いじめアンケートやチューター面談によっていじめの未然防止と早期発見・解決に取り組んでいる」の満足度				生徒アンケート「市工は、安心して登校・生活できる環境である」の満足度				1学年
				4	90%以上	3	80%以上	4	90%以上	3	80%以上	
				2	70%以上	1	70%未満	2	70%以上	1	70%未満	
			○学年団・生徒指導部・保健部・各教科との連携を密にすることで生徒情報の共有をし、協働的に取組み、生徒の変化を素早く感じ取り、人間関係を築けるよう個々の適性に応じた対応を行い適切な指導を行う。 ○進路選択への取組みの一環として、授業規律や基本的生活習慣を確立し、自発的に行動する人物を育成する。	教職員アンケート「私は、いじめアンケートやチューター面談によっていじめの未然防止と早期発見・解決に取り組んでいる」の満足度				生徒アンケート「市工は、安心して登校・生活できる環境である」の満足度				2学年
				4	90%以上	3	80%以上	4	90%以上	3	80%以上	
				2	70%以上	1	70%未満	2	70%以上	1	70%未満	
			○学年団・生徒指導部・保健部・各教科との連携を密にすることで生徒情報の共有をする。そして、協働的な取組みによって、生徒の変化を素早く感じ取り、個々の適性に応じた対応と指導を行う。 ○授業規律を守り、学びを深め、基本的生活習慣を確立させていく。そして、自発的行動によって、成人としての規範意識や権意識をもち、社会で活躍するために必要な人間関係を築くことができる人物を育成する。	教職員アンケート「私は、いじめアンケートやチューター面談によっていじめの未然防止と早期発見・解決に取り組んでいる」の満足度				生徒アンケート「市工は、安心して登校・生活できる環境である」の満足度				3学年
				4	90%以上	3	80%以上	4	90%以上	3	80%以上	
				2	70%以上	1	70%未満	2	70%以上	1	70%未満	
地域連携・情報発信	学校の特色を積極的に発信し、地域連携に取り組むなど、地域とともにある学校づくりを進め、本校教育活動への理解と信頼を高める。	NO8 今日的な様々な情報発信ツールを活用して学校の特色を積極的に発信するとともに、工業科の特長を活かして地域課題を解決するなど、地域とともにある学校づくりを進め、保護者をはじめ学校関係者からの本校教育活動への理解と信頼を高める。	TikTok、HP、YouTube、市工NEWS（号外含）、インスタグラム等の各種情報媒体を積極的に活用し、シズル感を重視した「生の市工生」と「工業高校の魅力」を中学生、保護者、地域の方々へ最大限にアピールする。 昨年度に引き続きオープンスクール等を充実させ、効果的なPR、広告活動を積極的に展開し志願者数増加への戦略を展開する。また、生徒が主体的に設定した研究テーマによる課題研究を推進する。各科の横断的な取組やテーマ発表会等を通じ、探究的な学びの充実を図る。	オープンスクールに参観した中学生の人数				志願者数				企画・広報部
				4	500人以上	3	400人以上	4	1.1倍以上	3	1.06倍以上	
				2	350人以上	1	350人未満	2	1倍以上	1	0.96倍以上	
			毎月、行事日程表を保護者へ配布することによって、学校行事やPTA活動についての啓発に努め、保護者の学校活動への参加を促す。	毎月の日程表と各行事案内の配布				体育祭・市工祭の保護者の参加のべ人数				総務部
				4	100%	3	95%以上100%未満	4	800人以上	3	700人以上800人未満	
				2	90%以上95%未満	1	90%未満	2	600人以上700人未満	1	600人未満	
働きやすい学校	働き方改革の視点から教職員の業務の在り方の検討を進め、教職員の健康保持と生徒と向き合う時間の確保に努める。	NO10 「第2期広島市の学校における働き方改革推進プラン」に基づく業務改善を推進するとともに、全教職員が年間月平均勤務時間外在校等時間の45時間以下を目標にする。	教職員の業務負担感軽減のため、①教職員間および時期の平準化、②業務の重複解消による効率化を図る。主な方策は部活動の顧問間で指導担当をローテーションすることで業務負担の平準化を目指す。そこで、各顧問の年間平均指導回数上限について、課業日週3日、週休日は月2日(公式大会等を除く)を原則とする。また、資格取得指導については、検定科目や補習等の指導内容を教職員間で共有・見える化することで重複を防ぎ、負担感軽減と相互補完による平準化を進める。	教職員の1カ月あたりの年休取得時間数平均				年間月平均の勤務時間外在校等時間が45時間以下の教職員の割合				管理職
				4	11時間以上	3	9時間以上	4	95%以上	3	90%以上	
				2	7時間以上	1	7時間未満	2	85%以上	1	80%未満	